



Title	OUKA News Letter : Open Access Week 特別号
Author(s)	
Citation	OUKA News Letter
Issue Date	
Text Version	author
URL	http://hdl.handle.net/11094/26061
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

OUKA News Letter

- Open Access Week 特別号 -

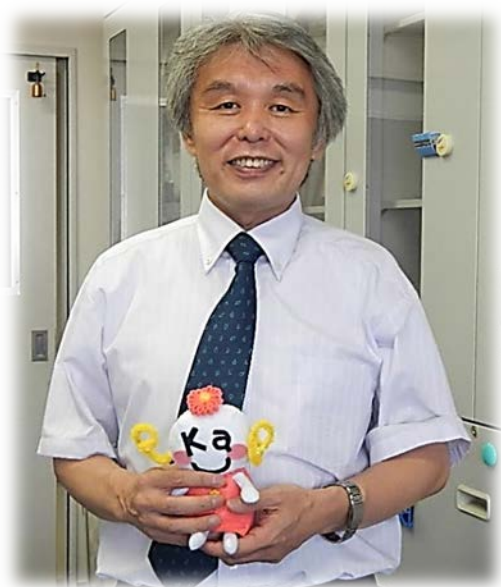
巻頭特集

工学研究科・副研究科長

田中敏宏先生

インタビュー

2013年9月25日に、工学研究科・副研究科長の**田中敏宏先生**の研究室にお邪魔してインタビューを行ってきました。学位授与式の直前というお忙しい中、2時間にわたって、オープンアクセスなどについて沢山のお話を伺うことができました！



— **先生が日々取り組まれている研究について教えてください。**

金属やセラミック、ガラスなどの材料を、どのようなプロセスで如何に作るかを研究しています。

物を作る時、金属などを高温に溶かして液体にします。その液体の物理的な性質や、化学的な性質を調べる研究ですね。液体の状態では器の影響を強く受けてしまいます。そこで、宇宙ステーション「きぼう」で液体を浮かしたまま実験を行う事も検討しています。

アメリカやヨーロッパも、それぞれが宇宙ステーションをもっているので、連携して研究を行ったりもしています。

— **研究に必要な情報はどのように手に入れていますか？オープンアクセスについてどのようにお考えですか？**

昔は別刷りを購入したりしてしま

したが、今ではオープンアクセスの論文も含めて電子で基本的に読みます。

私の研究分野では、最近は単独で研究せず、それぞれの得意な分野の人と連携する事が増えています。そういった人たちとの情報交換が、質的にも量的にも優れていると感じますね。

オープンアクセスになってほしいのは、古い文献（戦前の文献）ですね。原理はこの頃に発見されているので、これらにアクセスできると便利です。あとは紀要類でしょうか。

— **平成24年の10月に工学研究科では「学術研究成果公開ポリシー」※を策定されましたが、このポリシーについて一言お願いします。**

大学にとって、我々研究者の生の情報が蓄積されるのは望ましい事だと考えています。

工学研究科の中には色々な分野があ

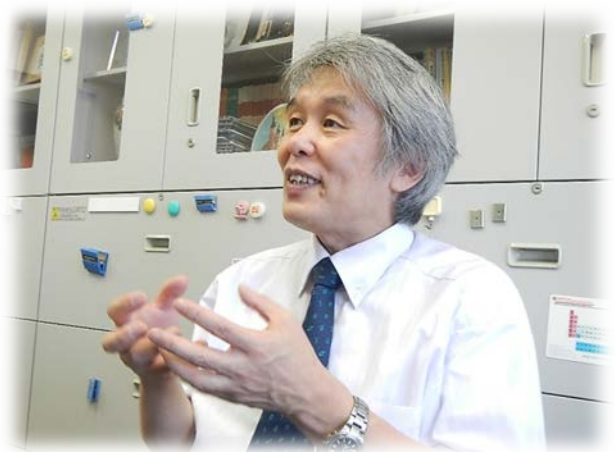
り、それぞれが専門的な研究を行っています。どういう分野の人が、どのような研究を行っている、どの程度の分量があるのか、なかなかわからない。これらが、機関リポジトリOUKAという1箇所にまとめられて、並んだ形で蓄積されることは大学の価値になるでしょう。

今後のリポジトリに必要なのは、研究者に「蓄積」だけではなく「利用」にメリットを感じてもらえるような仕組みづくりだと思います。

— これからの図書館に要望があれば教えてください。

現在、大学における「教育の質の保証」が見直されています。特に、自習時間の確保が重視され、それに対応した授業や課題が増えることになるかと思えます。図書館では、自習をサポートできる環境を整えてほしいですね。

日本の講座制（卒業研究制）は、海外でも稀にみる質の高い教育です。1年にわたって、朝から晩まで1つの研究テーマについて、練習ではない本当



の研究を行います。しかし、学部生の1年～3年では、大きな講義室で、先生の話をきくだけの授業が大半でした。これらの授業の形は今後大きく変わり、アクティブラーニングを重視した授業に変わっていくことでしょう。

図書館は、教員と連携して、授業の中身と本当にリンクした情報を収集し、提供していくことができれば、日本でも先進的な取り組みになるのではないのでしょうか。



図書館にはアクティブラーニングのスペースとして“ラーニングcommons”を設置しています。（総合図書館・理工学図書館・外国学図書館）

TAによる、図書館での学びサポートもありますので、是非活用ください！

チェック



※工学研究科の「学術研究成果公開ポリシー」って？

工学研究科に所属する教職員が作成した研究・学問の成果を広く社会に公開することを目的にしたポリシー。
工学研究科の教職員の研究成果物を、
大阪大学機関リポジトリOUKAで公開することをすすめている。

OPEN ACCESS: Redefining Impact

2013年10月21日から27日にかけては「Open Access Week」として、オープンアクセスを盛り上げるために世界各地で様々なイベントが行われます。

そもそもオープンアクセスとは？

オープンアクセスについての定義や理念は人や立場によって幅がありますが、大枠としては、「誰もが自由に見ることができて、自由に利用できるような条件で論文がインターネット上に公開されることによって、**学術情報への障壁のないアクセスを可能にし、更なる学問の発展に資すること**」と言えるでしょう。広く認知されているオープンアクセスの定義として2002年に公開されたBOAI(Budapest Open Access Initiative)¹という声明書がありますが、その中ではオープンアクセスを実現する方法としてセルフ・アーカイビング (Green Road) とオープンアクセス雑誌の刊行 (Gold Road) の2つの道が記されています。

Green Road



雑誌に投稿した論文あるいはプレプリントを研究者自らが機関リポジトリ等で無料で公開する方式

公開されたコンテンツはROAR²やJAIRO³から検索ができるほか、Googleなどのサーチエンジン、Discovery Service(附属図書館HPの「まとめて検索」)などからも検索ができます。

Gold Road



学術雑誌自体を誰もが無料で読めるように公開する方式

DOAJ⁴には9957の学術雑誌が登録されており(3年でほぼ倍増)、また、雑誌すべては公開していないが、投稿の際に著者が無料公開するかを選べるハイブリッドモデル(著者選択モデル)の雑誌も増えています。無料公開の雑誌は附属図書館HPの「電子ジャーナル」からも検索ができます。

オープンアクセスウィークについて

オープンアクセスウィークはアメリカのSPARCが主催して、毎年10月の最終週に行われていますが、今年で7回目となりました。開催期間中は鍵が開いた形を模したオープンアクセスのロゴやイメージカラーのオレンジで溢れる中、世界各地でオープンアクセスにまつわるイベントや発表がなされます。毎年テーマがあり、昨年の「Set default to open access:規定値をオープンアクセスにしよう」に続き今年は「Redefining Impact: インパクトを再定義する」です。

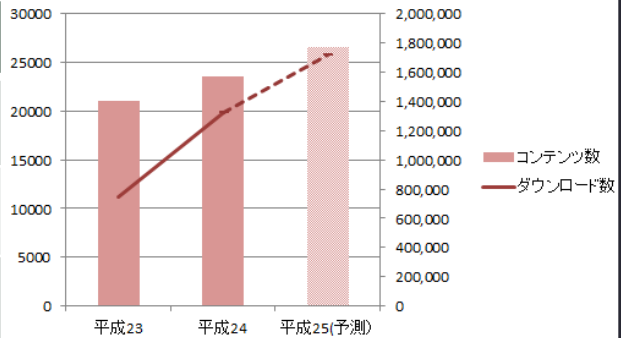
1. Open Society Institute. "Budapest Open Access Initiative".
<http://www.soros.org/openaccess/read.shtml>
2. ROAR: Registry of Open Access Repositories (世界各地の3511のリポジトリを登録: 10月10日現在)
<http://roar.eprints.org/>
3. JAIRO: Japanese Institutional Repositories Online (国内305機関のリポジトリを登録: 10月10日現在)
<http://jairo.nii.ac.jp/>
4. DOAJ: Directory of Open Access Journals (無料公開している学術雑誌9957誌を登録: 10月10日現在)

大阪大学 機関リポジトリ
OUKA
 Osaka University Knowledge Archive
<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/>

大阪大学学術情報庫OUKAとは

大阪大学の教育研究活動から生み出される論文などの学術成果を電子的に公開・保管し、オープンアクセスを推進する大阪大学の事業により構築したデータベースです。インターネットを通じて世界中の誰もが、大阪大学の学術成果をいつでも無料で見ることができます。学術雑誌論文、紀要論文、博士論文、会議発表資料、研究報告書など大阪大学の教職員ならびに大学院生のさまざまな学術成果を掲載しています。

	平成24年度	(平成25年9月末)
コンテンツ収録数	23,527	(25,080)
コンテンツ増加数	2,418	(1,553)
ダウンロード数	1,322,952	(860,457)



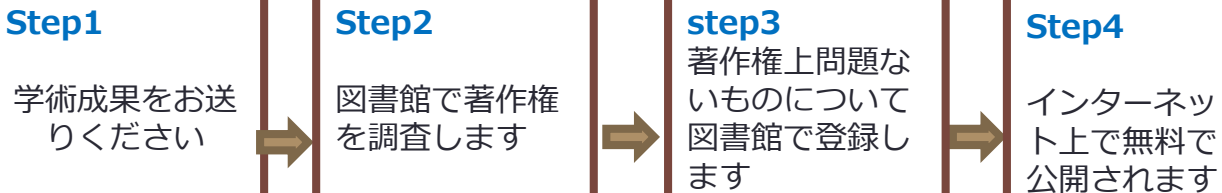
あなたの論文を、OUKAで公開しませんか？

OUKAで論文を公開すると世界中の人が無料でアクセスできます！



論文の公開方法は？

学術成果を下記のアドレスまでお送りください。
 著作権調査などの必要な作業は図書館で行います。



お問い合わせ先

附属図書館電子コンテンツ担当 ouka@library.osaka-u.ac.jp

上記、メールアドレスまでご連絡ください！